

答え合わせ・解説

問1	答え 4 地頭	地頭は、荘園や公領において年貢の取りまとめや土地の管理を行いました。また、治安維持や裁判の補助を行う警察的な役割も担うようになり、次第に現地の武士として強い権力を持つようになりました。
問2	答え 2 軍役	軍役は、御家人が「奉公」として果たさなければならない主要な義務です。戦が起きた際に手勢を率いて駆けつけたり、京都や鎌倉の警備に当たったりすることが求められました。これは御恩に対する見返りであり、御家人の家格や領地の広さに応じて課されることが一般的でした。
問3	答え 4 親鸞	親鸞は、自らの修行ではなく、阿弥陀仏の救いを純粹に信じることを強調しました。彼は妻帯（結婚）を許可するなど、当時の常識を打ち破る革新的な行動をとり、民衆の生活に入り込むような布教を行いました。これが「浄土真宗」として大成し、多くの信徒を惹きつけました。
問4	答え 1 平家物語	平家物語は、平清盛をはじめとする平氏一族の栄華とその滅亡を描いた文学作品です。「祇園精舎の鐘の声…」という有名な書き出しで始まり、武士の戦いぶりや人生のはかなさが強調されています。文字が読めない人も多かった当時、琵琶法師が日本全国を回り、琵琶の伴奏とともに節をつけて語ることで広く普及しました。
問5	答え 4 石築地	執権・北条時宗は、博多湾の海岸線に沿って高さ約2メートルにも及ぶ石の壁、石築地（元寇防壁）を築かせました。これは騎馬武者が元軍の上陸を食い止めるための強固な障壁として機能し、後にくる元軍の再襲来（弘安の役）で大きな効果を発揮しました。
問6	答え 4 地頭	地頭は、御家人の中から任命され、土地の管理や年貢の徴収を行いました。単なる管理役にとどまらず、次第にその土地での権力を強めていき、武士の地方支配の拠点となりました。特に承久の乱の後には、幕府が地頭を全国の荘園や公領に配置したことで、幕府の統治範囲が飛躍的に拡大しました。
問7	答え 1 1221年	1221年、後鳥羽上皇が中心となって起こしたのが承久の乱です。これに対し、幕府は北条政子の演説で御家人を結束させ、京都へ軍勢を送りました。幕府軍の勝利は、それまで優位であった朝廷が武家に完全に屈服したことを意味しました。
問8	答え 1 ヨーロッパ東部	モンゴル帝国の支配はアジアにとどまらず、西へ大きく拡大しました。中央アジアを経て、東ヨーロッパにまで達しました。これにより、ユーラシア大陸の東西をつなぐ広大な支配圏が確立されました。
問9	答え 3 文永の役	1274年の文永の役と、1281年の弘安の役の2度、元軍が九州北部に襲来しました。元軍は火器などを用いた集団戦法で攻めてきましたが、御家人たちの奮戦や、暴風雨の影響もあり、幕府はこれを退けることに成功しました。
問10	答え 4 源義経	源義経は、一ノ谷の戦いや屋島の戦いなど、数々の戦いで創意工夫を凝らした戦術を用いて平氏を追い詰めました。最終的な決戦となった壇ノ浦の戦いにおいても、巧みな指揮で源氏の勝利を決定づけました。その武勇は伝説化され、日本で最も有名な英雄の一人となりました。
問11	答え 3 鎌倉文化	鎌倉文化は、武士の気風や、新しく起こった仏教の影響を受けています。彫刻では写実的で力強い表現が、文学では『平家物語』のような軍記物語が人々に親しまれました。また、禅宗の影響を受けて、簡素で力強い美意識が確立されたのも大きな特徴です。
問12	答え 2 御家人	御家人は、将軍から領地を安堵される「御恩」を受ける代わりに、戦時の軍役や京都・鎌倉の警備といった「奉公」を義務付けられました。彼らは幕府の制度を支える重要な存在であり、北条氏などの有力御家人は幕府の政治運営においても中核を担いました。
問13	答え 4 六波羅探題	幕府は京都に「六波羅探題」を設置しました。これは朝廷や西国の武士を監視し、京都周辺の治安維持や裁判を行うための重要な出先機関でした。
問14	答え 4 御恩	「御恩」とは、将軍が御家人に対して本領の安堵（土地の支配権を認めること）や、新しい領地の供与を行うことです。これに対して御家人は「奉公」という軍役や警備の義務を負いました。
問15	答え 4 力強さ	「力強さ」とは、鎌倉文化を象徴するキーワードです。武士の生活や気風を反映し、華やかな貴族文化とは対照的に、写実的で現実味のある表現が好まれました。
問16	答え 2 随筆	随筆（エッセイ）は、決まった形式に縛られず、個人の内面や世の中に対する洞察を記すものです。鎌倉時代には吉田兼好の『徒然草』が、平安時代の清少納言の『枕草子』と並ぶ代表的な随筆として知られます。